目 次

はじめに 「他者の視点取得」をとおした現代韓国の合理的理解 1

「史上最悪の日韓関係」から「同志国/パートナー」へ (1) 年齢層・世代ごとの「韓国」観(2)「他者の視点 取得」という技法・姿勢(3)「合理的理解」とは何か (4) 「現代韓国」というリミット(6) ソーシャル・ ディスタンシングという間合い(7) いかにつながる か——13 の視座(8)

第 I 部 政治・社会・経済

1 「地域主義」の変容 ------15

第1章 分極化する韓国政治

(28)

14

	4	深刻化する分極化29	
		「富士山」から「ふたこぶらくだ」へ(29) 感情的分極	
		化の「現住所」(30) 読む/視るメディアも「世界」も	
		真っ二つ(31) 代議制民主主義・政党政治の「危機」か	
		(34)	
第	2章	・ 分極化する韓国社会	37
	1	社会的格差の問題38	
		韓国社会の分極化とは何か(38) 進学格差(39) 正規	
		職と非正規職,そして自営業(40) 貧困と格差(40)	
	2	世代間・世代内の分極化42	
		世代間対立(42) ジェンダー対立(43) 世代内の分極	
		化(44) 本質的な問題は何か(45)	
	3	首都圏と地方46	
		首都圏一極集中と「地方消滅」(46) 首都圏と地方間の	
		格差をどう埋めるのか(47) 韓国版「地方創生」	
		(48) 韓国社会の宿痾 (49)	
	4	男性と女性50	
		『82 年生まれ,キム・ジヨン』(50) 数字でみるジェン	
		ダー不平等(51) 韓国政治における女性の不在(52)	
		分極化を超えて(53)	
	2 -		
第	3章	f 変わりゆく韓国家族の姿	57
	1	さまざまな家族のかたち58	
		数字でみる家族の変化(58) 血縁観念と戸主制の廃止	
		(59) 個人化する家族 (60)	
	2	ジェンダーでみる家族62	
		儒教的「家族主義」とジェンダー(62) 結婚しない・で	
		きない若者たち(64) シングルマザーと海外養子(66)	
	3	急速な少子高齢化と家族67	

	4	急激な少子化とその背景(67) 親子関係の変容と高齢者の貧困(69) 家族と社会保障(70) 多様化する家族72 「正常」家族イデオロギーを超えて(71) グローバル化する家族(73) 国際結婚と多文化家族,そして包摂(76)	
第	4	章 韓国の政治経済と「日韓逆転」	79
	1	「日韓逆転」は生じたのか80 GDPではまだ日本の 40%(80) 購買力平価によるドル 換算の平均賃金(81)	
	2	経済成長の裏に潜む貧困と格差84 経済成長にも国民の体感度は低い(84) 韓国社会で進む 分極化(85) 貧困率「15.1%」(86) 公的年金の浅い 歴史(87)	
	3	政治経済と社会保障制度・労働政策 88 政治的理念により大きく変わる経済社会政策 (88) 経済 成長を最優先 (89) 進歩政権は社会保障政策を拡充 (90) 保守政権はビジネスフレンドリー政策を実施 (91) 文在寅政権による所得主導成長 (93) 尹錫悦政 権による「年金・労働・教育改革」(94)	
	4	日韓協力で社会問題の解決は可能か94 「アベノミクス」で日本経済は復活したのか?(94) 人 的資本交流を通じたシナジー効果(97) 第 II 部 外交・安全保障	
第	5	章 韓国の対北朝鮮政策・統一政策	102
	1	韓国の対北朝鮮関与政策103	

関与政策とは何か(103) 連携戦略と並行戦略(104)

		2 つの相互主義(105) 対北朝鮮政策・統一政策のアプローチ(106)	
	2	歴代政権の対北朝鮮政策・統一政策の変遷108	3
		「和解協力政策」と「平和繁栄政策」(108) 「非核・開	
		放・3000」と「韓半島信頼プロセス」(109) 「韓半島平	
		和プロセス」から「大胆な構想」へ(110)	
	3	対北朝鮮認識と関与政策112	2
		北朝鮮をどう認識するか(112) 北朝鮮認識から導かれ	
		る対北朝鮮関与(114) 関与の程度の推移(115)	
	4	対北朝鮮関与の展望118	3
		関与の有効性(118) 米韓の政策協調の重要性(119)	
		朝鮮半島の非核化における関与(121)	
第	6章	● 米軍基地がつなぐ日本と韓国──朝鮮半島有事と「日米韓」安保連携	125
	1	朝鮮半島有事と日本の選択126	 ó
		日本は局外者でありえるか(126) 有事対応のシナリオ	
		(127) 日本が問われること (129)	
	2	朝鮮国連軍と日本の関わり131	1
		朝鮮戦争と日本(131) 日本の独立と「吉田・アチソン	
		交換公文」(134) 在日国連軍基地(135)	
	3	日米同盟にとっての朝鮮半島有事135	7
		事前協議制度の導入と「朝鮮議事録」(137)「韓国条項」	
		と密約の効力(139)「人と人との協力」の模索(141)	
第	7章	章 韓国の経済安全保障戦略	1 4 7
_		曖昧性から明確化へ 	146
	1	「ニュー・ノーマル」な国際秩序と韓国145	7
		「ニュー・ノーマル」な国際秩序と米中競争(147) 相互	
		依存の武器化(148)「曖昧な」外交とその変遷(149)	

日本との対照(151)

	2	経済安全保障からみた韓国の FTA と TPP15	1
		経済安全保障と FTA(151) 韓国の「経済領土」と米韓	
		FTA (152) 「同時多発的なFTA」推進と政策転換	
		(153) TPP・CPTPP への道のり(154)	
	3	「曖昧な」経済外交からの脱却 ――韓国のインド太平洋戦略156	ó
		中国の「一帯一路」――債務の罠?(156) FOIP 戦略	
		と IPEF の争点(158)「グローバル中枢国家」――積極	
		的外交への転換点(160)	
	4	日韓貿易摩擦――輸出規制の影響と背景16	1
		貿易の「武器化」?(161) 歴史問題と日韓関係の悪化	
		(163) 政治的対立と No Japan 運動(165)	
	_		
第	8 🛊	韓国の国防戦略・計画	168
	1	韓国の国防戦略169	7
		韓国の国防(169) 歴史からの解放(170) 朝鮮戦争と	
		休戦後の軍事対立(172) ポスト冷戦期――全方位防衛	
		態勢に向けて(173)	
	2	韓国の国防計画175	5
		国軍創建と朝鮮戦争(175) 韓国軍を近代化させた栗谷	
		事業(177) 繰り返される「国防改革」(180)	
	3	韓国軍の現状とゆくえ185	5
		韓国軍の実力(185) 韓国軍の今後――展望と課題	
		(187)	
		// 177 ±17	
		第Ⅲ部 文化・宗教・言語	
第	9章	₫ 映画という韓国社会を読み解くレンズ	192
	1	表現の自由を求める闘い193	3
		植民地支配から南北分断へ(193) 独立映画による闘争	
		(194) 南北を描いた映画の変化(196)	

	2	主流は現代史を描いた映画197 『シルミド』大ヒットからの傾向(197) 史実と映画の違
		い(199) 何を描き,描かなかったのか(201)
	3	映画と実社会のつながり202
		大統領を描いた映画のヒット(202) 映画が実社会を動
		かす(203)『パラサイト』が描いた格差(205)
	4	
		繰り返し作られた『春香伝』(206) #MeToo運動と
		『82 年生まれ,キム・ジョン』(207)「私」が出発点の
		女性映画(209)
第	10	章 宗教文化からみる韓国社会――越境する宗教 213
	1	韓国社会の宗教空間の特徴214
		公休日(祝日)からみる宗教文化(214) 死後儀礼から
		みる宗教文化(215) 韓国宗教史にみる仏教(216)
	2	韓国社会はどこまで儒教社会か218
		儒教とは何か――朱子学の家庭儀礼(218) 人間関係の
		なかに息づく儒教文化(220) 韓国社会の脱儒教とその
		後遺症(221)
	3	キリスト教からみる韓国社会223
		韓国キリスト教の受容史(223) なぜクリスチャンが多
		いのか――東アジアの宗教観との融合(225) 韓国社会
		におけるキリスト教認識(226)
	4	民間信仰およびその他のスピリチュアリティ228
		民間信仰と伝統的死生観,風水思想(228) 巫俗(シャー
		マニズム)の伝統(229) 諸宗教の習合(越境)とエン
		タメのなかの宗教(231)
第	11	章 韓国語という鏡――日韓対照言語学の視座 235
	1	韓国語とは何か236

		韓国語を使っている地域と人々(236) 言語の名称 (237) ハングルとはどのような文字か(238)	
	2	韓国語の過去を探る240	
		歴史・比較言語学の視座(240)「ウラル・アルタイ語	
		族」説(242) 韓国語の起源(243)	
	3	現代韓国語の特徴 (1)244	
		表記上の特徴(244) 音韻論的特徴(246) 語彙論的特	
		徴(247)	
	4	現代韓国語の特徴 (2)249	
		形態論的特徵(249) 統語論的特徵(250) 語用論的特	
		徴(251)	
4-4-	10	* (****) *** **************************	
弟	12	章 〈尹東柱〉という磁場 朝鮮語文学への潜り戸として 25.	5
	1	「詩の国」としての韓国256	_
	•	「東アジア」の詩人・尹東柱257	
	_	中国朝鮮族と尹東柱(257) 東アジア史を瞻視する	
		(259)	
	3	磁場としての〈尹東柱〉260	
		ふたつの謎 (260) 翻訳をめぐる問題 (263) 〈抵抗詩	
		人〉というドグマ(266)〈いのちの詩人〉としての尹東	
		柱(269)	
	4	〈わからなさ〉を引き連れて270	
	4.0		
第	13	章 韓国人にとって日本とはどういう存在なのか 27	3
	1	「日本問題」はほぼ解決した274	
		韓国にとって日本は「重たい」国(274) 日本認識は単	
		純ではない(275) 韓国が日本より上位に立った(とさ	
		れる) 6 つの分野(277) もっとも幸福な韓国人(280)	
	2	韓国の「日本認識」における問題点281	

	日本認識の「死角」(281) 韓国側の問題①――本質主義,
	流出主義(283) 韓国側の問題②――島国への視線
	(284) 韓国側の問題③――親族制度という文明意識
	(285)
3	日本側の問題点286
	日本側の問題①――日本特殊論(286) 日本側の問題
	②歴史への無知(287) 日本側の問題③暴力は どちらの側にあったか(289)
4	日韓双方の問題点290
	· 「日本対韓国」なのか――日本と韓国を区別しすぎる問題
	(290) 文明・文化の岐路に対する認識(291) 日韓関
	係は「文化」「文明」を考える重要な枠組み(293)

あとがき 295 ブックガイド 299 キーワード索引 301 韓国の人名・地名索引 306

コラム

- 1 「学びほぐし」と「学び直し」 32
- 2 若者が感じる格差社会の実相 54
- 3 映画が描くさまざまな日韓の家族 74
- 4 韓国における家計債務の現状と特徴 96
- 5 韓国における「北韓」研究 122
- 6 「インド太平洋」時代の日米韓連携 142
- 7 ハーバード大学でのサバイバル 164
- 8 韓国の兵役制度 186
- 9 厳しい検閲が生み出した『馬鹿宣言』 210
- 10 「恨」とは韓国人固有の情緒なのか 232
- 11 社長様はいま, 席を外していらっしゃいます 252
- 12 K-BOOK ブーム 268
- 13 日韓の親族制度の違い 292

はじめに 「他者の視点取得」をとおした 現代韓国の合理的理解

浅羽 祐樹

「史上最悪の日韓関係」から「同志国/パートナー」へ

「史上最悪の日韓関係」といわれていましたが、韓国で 2022 年5月に政権が交代し、予錫 悦が大統領に就くと、一転したようにみえます。旧朝鮮半島出身労働者(強制労働被害者)問題(以下、徴用工問題)に関する韓国司法の判決について、日本政府は「国際法違反」と断定し、是正を求めていましたが、尹大統領は 23 年 3 月に韓国政府の責任で解決すると明言しました。これを契機に、日韓シャトル外交が復活し、いまや政府間関係は全面的に正常化しました。

さらに、北朝鮮の核・ミサイルに対する「脅威」認識や「台湾海峡の平和と安定」の重要性なども共有することで、日米韓の安保連携が内実化しつつあります。共同で軍事演習をおこない、ミサイル発射に対するレーダーの情報を即時に共有することで統合抑止力を確保しようとしています。

日本政府は22年12月に国家安全保障戦略を策定しましたが、そのなかで「日米同盟を基軸としつつ、日米豪印(クアッド)などの取組を通じて、同志国との協力を深化し、FOIP(自由で開かれたインド太平洋)の実現に向けた取組を更に進める」と表明しています。FOIPは日本が掲げた秩序構想ですが、「インド太平洋」と「北大西洋」(欧州+北米)の平和と繁栄はつながっているものとし

て理解されます。それだけ、ユーラシアの東西において力によって現状を一方的に変更する試みや勢力が現に存在し、その対処が喫緊の課題になっているというわけです。日韓両国は 22 年以降、オーストラリアやニュージーランドとともに NATO (北大西洋条約機構) 首脳会談に 3 年連続で参加しています。

日韓は同盟関係にはありませんが、ユーラシアの東側、「西太平洋」で「最前線」に立っています。そうしたなか、互いに「同志国/パートナー」として位置づけつつ、「自由守護」の旗幟を鮮明にしています。韓国も 22 年 12 月に「自由・平和・繁栄のインド太平洋戦略」を策定しました。

年齢層・世代ごとの「韓国」観

韓国に対する見方の変化は市民のレベルでも確認できます。

内閣府が毎年実施している「外交に関する世論調査」では、12年に「韓国に親しみを感じない」が「感じる」を上回って以来、感情面でも疎遠な状態が続いていましたが、23年に再び、「感じる」(52.8%)が「感じない」(46.4%)より高くなりました。12年は慰安婦問題、李明博大統領の竹島上陸(独島訪問)、「日本の国力低下」発言、「日王(天皇)謝罪」発言などがあり、日本の韓国に対する見方が一気に悪化した年です。

再逆転が起きたわけですが、この間も、20代で逆転したのは 16年・18年・19年のみで、ほかの年齢層とは明らかに異なる傾向がみられました。23年現在、「親しみを感じる」(66.5%) は「感じない」(33.8%) の2倍で、国民全体の平均値と比較しても 13.7 ポイント高い値です。

この間、男女差も一貫してみられ、女性のほうが「親しみを感じ

る」という回答が高い傾向があります。23年現在、男性は「感じない」(52.0%)が「感じる」(47.1%)より 4.9ポイント高い一方で、女性は「感じる」(58.1%)が「感じない」(41.2%)より 16.9ポイント高いという結果です。年代別・男女別のデータが開示されていないため確定的なことはいえませんが、20代女性は韓国に対してもっとも親しみを感じている集団であると思われます。韓国では近年、「イデニョ(20代女性)」と「イデナム(20代男性)」の性向の違いが顕著になっていますが、日本でもイデニョの「韓国」観は独特です。

何がこうした違いをもたらしているのかは別途検討しなければいけませんが、イデニョからすると、韓国そのものよりも、日本の高齢男性の韓国観のほうが異質に映っているかもしれません。韓国と聞いて、「K-POP」「コスメ」が思い浮かぶか、「徴用工問題」「自衛隊機レーダー照射問題」が気になるかで、親近感が異なるのは当然でしょう。

「他者の視点取得」という技法・姿勢

私は大学で教えるうえで、少人数演習(ゼミ)では以下の 4 点を 大切にしています。第 1 に、「私」の興味 = 関心や価値観を知るこ とです。何をおもしろがり、何を大切にしているのかはそれぞれ異 なりますし、新しい学びや出会いを通じて変わっていきますが、ま ずは「私」自身の偏りに気づくことから始まります。

第2に、他者の関心や価値観に関心を向けることです。そのためには、じっと耳を傾け、よく観察しないといけないでしょう。たとえ「私」には関心がなくても、隣人がおもしろがっているもの、世の中でヒットしているものがあれば、どこに人々は興味を持ち、

なぜ情熱・時間・金をかけるのかがわからなければ、卒業後、「ビジネス」(金儲けに限らず、他者とのやりとり)に困るからです。ここで意識的にトレーニングしてもらっているのが「他者の視点取得(perspective-taking)」という技法や姿勢です。あの人、その人それぞれの損得計算、絶対に譲れないことは何なのか、彼ら彼女らの目に世界はどのように映っているのかを、そのまま再現し、受けとめるのです。「竹島上陸(独島訪問)」という表記はそのためです。

第3に、「私」の関心や価値観について、他者に「おもしろい」と思ってもらえるように伝えるということです。大学や教室では、講義を聴いてくれる学生やレポートを読んでくれる教員がいますが、消費者にそっぽを向かれた商品はコンビニの棚からすぐ消えます。 外交の世界でも、自国民や相手国国民だけでなく、広く世界市民からも「心と精神を勝ちとる」パブリック・ディプロマシーがますます重要になっています。

第4に、そうした自由で対等な「私」たちが集まり、「私たち」としてどのように選択・決定するかということです。ゼミでコンパする場合もそうですし、韓国に対する外交政策も意思決定過程が問われるでしょう。

「合理的理解」とは何か

近年、「合理的配慮」という用語や実践を目にすることはないでしょうか。これは、障害者差別解消法が2021年5月に改正され、まずは行政機関、そして一般事業所においても「合理的配慮の提供」が義務化されたことによるものです。ねらいは、障害があっても、社会的障壁を取り除くことで、差別されることなく「健常者」と等しく社会生活を営めるようにすることです。車椅子ユーザーは

階段しかなければ自分で2階に上がれませんが,エレベーターがあれば一人で上がれます。障害(disability)は機能障害(impairment)と社会的障壁(social barriers)の相互作用によって生じるもので,個人と環境の関係性を「解きほぐす」ことで緩和することができるという「捉え直し」が根底にあります。

この「合理的配慮」,原語では rational accommodation といいます。 accommodate という動詞には,「必要なものを提供する」「便宜を図る」「収容できる」「調整する」「和解させる」「受け入れる」などの意味がありますが,日本語の「配慮」や「思いやり」のニュアンスはありません。誰しも本来,対等な立場であり,相違や対立がある場合に,それぞれが――特に「健常者」の側が――どのように臨むのかという問いなのです。

似た例として「思いやりの原理 (principle of charity)」があります。これは、テキストを解釈する際の指針を示したものですが、より一般的には、相手はそれなりに筋の通った言動をしているはずだということを前提に、こちらはその意図を汲みとりながら向き合おうとする技法・姿勢を指します。ここでも「思いやり」という用語が充てられていますが、本来、そういうウエカラ目線ではありません。

人の間で相違や対立があるのは当然です。韓国政府の言動,日本国民のあいだでのさまざまな受けとめ方,異なる「韓国」観について,「私」はどのように臨もうとするのでしょうか。ここで大切にしたいのが「合理的理解(rational accommodation)」というアプローチです。それぞれの言動にはすべて,それなりの理由があり,その人なりの意味づけや根拠があるということです。ひとまず,そのまま受けとめるのです。評価,対応はそのあとで十分です。

「現代韓国」というリミット

本書では、主として現代韓国、「2020年代・大韓民国」のさまざまな姿を描いていますが、それに限られているわけではありません。特に第12章では、「韓国の民族詩人」と形容されることが多い尹東柱が東アジア近現代史のなかで捉え直され、「東アジアを移動し、東アジアを生きた詩人」と評されています。こうした「K-something」(「K文学」「K防疫」など)というナショナルな枠組みでは決して捉えられない諸相がほかの章にも刻まれています。

その尹東柱の詩碑が同志社大学今出川キャンパスにありますが、 近くの寺町通を下る(南に行く)と鷹山寺があります。紫式部が 『源氏物語』を書いた邸宅があった処です。主人公の光源氏の館で ある六条院は、もちろん作中の設定ですが、現在の五条通・六条通、 河原町通・富小路通に囲まれた区域にあったと推定されています。 こうした謂れを知っていると、風景や物事の見え方が異なってきま す。「いま・ここ」でリアルに街歩きしながら、そこここで「歴史 意識の断層」、フィクションと邂逅するのです。いまはカップルが 等間隔に座る鴨川も,三条河原や六条河原はその昔,刑場でした。 そんな風景も現在に重ね合わせてみえてくるでしょうか。そうした 「先に逝った者たち」の声が聴こえてくるでしょうか。私たちはそ んな歴史をどのように語り継ぎ,記憶することができるでしょうか。 ソウルのおしゃれスポット、弘大も同じです。たとえば「京義線 ブックストリート」は、「18世紀後半、本を通じて文治統治しよ うとした朝鮮時代の第 22 代国王・正 祖 (1752-1800) の時代の 冊架図文化を現代的解釈により甦らせ本を通じた複合文化空間とし て、旧京義線の廃線跡地に本をテーマにしたとおりとして誕生し 「た」(韓国観光公社ウェブサイト)と案内されていますが.その「旧

京義線」を敷設したのは「大日本帝国」で、京城(現ソウル)と新義州をつなぐのが主眼でした。新義州は現在、朝鮮民主主義人民共和国に位置し、中国とは鴨緑江をはさんで、中朝友誼橋で結ばれています。

ソーシャル・ディスタンシングという間合い

コロナ禍では、物理的距離は保ちつつも、社会的なつながりを強めようという動きがそこここでみられました。医療はもちろん、配達やゴミ集収などを担う人々、ふだん、私たちが直接やりとりすることはなくても、その存在なくしては日常生活が成り立たないエッセンシャルワーカーのありがたさを痛感しました。マスク着用は「自分が感染しない」ためというよりは「他人に感染させない」ためでした。ひとえに、「私たち」が共に生き延びるためでした。

しかし、「ポストコロナ」の日常を生きるなか、私たちはマスクを外しただけでなく、そうした共生の知恵もすっかり忘れてしまったかのようです。そもそも、コロナは終息したわけでは決してなく、ワクチン開発・接種、手洗いやうがいの継続などによって収束しているだけです。マスク着用も「個人の主体的な選択」に委ねられているとはいえ、依然として有効ですし、医療機関受診時や高齢者施設訪問時には効果的とされています。

social distancing は本来,「物理的距離 (physical distancing)」(世界保健機関 [WHO]) とは異なる概念であり、社会的な紐帯・連携はむしろ、切実に求められています。この間に増えた孤立 (isolation)、失業、自殺は「個人の不運」ではなく、「社会問題」なのです。

現在進行形(-ing)で提示されていることも示唆的です。そのとき、 プレイス オケージョン その場、その状況(TPO)に応じて、適度に間合いをとる、そのつ ど「調整する (accommodate)」のです。

はたして、韓国に対してどのような間合いをとるのがふさわしい のでしょうか。さらに、「私」とはまるで異なる「韓国」観を持っ ている人たちにどのように向き合うのが、自由で対等な人同士の関 係、人の間でしょうか。

本書は、13名の著者たちが2023年10月から24年2月にかけて研究会を重ねながら、それぞれの distancing のありさまを赤裸々に示し合うなかで生まれました。この絶えない対話のなかに「あなた」も加わってみませんか。誰かが新たに加わること、この世界に生まれることは、「新たな始まり」なのです。

いかにつながるか――13 の視座

本章はさまざまな「視座」から現代韓国を立体的に描くために、 3 つの部、13 の章に分かれています。

第 I 部「政治・社会・経済」では、まず、保守(右派)と進歩(左派)がそれぞれ先鋭化し、両者のあいだではほとんど対話が成り立たないくらい深刻化している「分極化」について、政治(第1章)と社会(第2章)の両面から検討します。そうすることで、社会的な亀裂が必ずしもそのまま政治的な争点になっていないことがわかりますし、政治(国民国家)に等値できない社会はいかに可能かの道筋もわずかながらみえてきます。そのズレが顕著なのが「家族の姿」(第3章)で、かつての「常識」のままでは、規範や秩序の変容、多様な生き方を否認することになってしまいます。いまや、あらかじめ決められたライフコースを歩むのではなく、ライフスタイルは「私」が選択するのです。経済(第4章)も、「日韓逆転」を衝撃/初期値としてとらえるかによって、向き合い方や対処法が

異なります。もちろん,少子高齢化,格差拡大,働き方改革,AI 時代のイノベーションなど,日韓には共通する課題も多くあります ので,相互に参照しやすい事例,パートナーのはずです。

第Ⅱ部「外交・安全保障」では,ますます不透明になる国際環境 における模索や戦略を参照します。分断状況にありながら統一を指 向しているはずの南北朝鮮関係は近年、「2 つのコリア」の様相を 呈していますが、第5章は演繹的に理論を構築したうえで事例に 適用とするという韓国研究では異色のアプローチを試みています。 第6章は「日米韓の安保連携」について、「自衛隊+在日米軍(日 米同盟)」と「韓国軍+在韓米軍(米韓同盟)」は米インド太平洋軍を 通じて統合抑止力と対応力を高めようとしていることだけでなく, 朝鮮国連軍(その司令官は在韓米軍司令官であり,有事の際,米韓連合軍 の作戦も指揮します)と後方司令部(日本の横田飛行場におかれていま す)を通じてもつながっていることも説明します。その歴史的経緯 を踏まえた現在的意義が切実でしょう。第7章は「経済安全保障」 を取り上げ、米中対立の狭間で難しい舵取りが迫られる 「開 放 型 小 経 済」の苦悩と決断を描きます。尹錫悦政権になって、 「曖昧さ」や「バランス外交」から脱却し,経済面でも「日米韓」 の側に立つと明確にシフトしたというのです。それほど国内の「分 極化」は外交・安保、南北朝鮮関係に反映されているのですが、 「国防戦略」だけは超党派のコンセンサス(合意)があるというの が第8章の主張です。周辺の列強からたびたび侵略され、国家主 権を失ったこともあるなかで、「自主国防」が一貫して図られ、超 弩級のバンカーバスター(地下100メートルまで貫通するといわれて います) である「玄 武-5」が「国軍の日」パレード(2024年10月 1日)で披露されたばかりです。「米国の核なきジュニアパート

ナー」として、日本も反撃能力の向上に努めています。

第Ⅲ部「文化・言語・宗教」では、人間の生きざまや生死が問わ れます。ドラマや文学を通じて韓国史を読み解く試みが増えてきて いますが、第9章は「映画」というレンズに映った韓国社会と, 映画という表象/フィクションがきっかけになって社会が変わるダ イナミズムを明らかにします。挙げられている作品を動画配信サー ビスなどで同時に視聴するのも、マルチコンテンツ時代における読 書の楽しみ方かもしれません。第10章は「宗教」がテーマで、ど のように弔い、継承/記憶するのかには、生者と死者のつながり方 や共同体のあり方が映し出されます。儒教の伝統が「家族の姿」も 含めて社会の規範や秩序を長らく規定していましたが、近代化、合 理化のなかで様変わりしています。それでも,いや,だからこそ, 「MBTI」などのポップ・スピリチュアリティもそこここでみられ ます。第 11 章は「韓国語」を日本語と対照させて,その特徴に迫 ります。この2つの言語は似ているとよくいわれますが、何を基 準にするかをまず明確にしないと比較することはできませんし,歴 史的な変遷をたどらないと分岐もわかりません。「対照」させ、「比 較」するには,適切な方法をトレーニングする必要があります。第 12章には「韓国」よりも「朝鮮」のほうが出てきます。さらに、 「わからない」からこそ、人の間で対話が始まり、続くという局面 を分節化しています。難漢字を「翻訳」することはあえてせず,ル ビだけを付しています。辞書を引いたり、スマホで画像翻訳をした りして、リテラシーを確かめてみてください。最後、第13章は 「韓国にとって日本とはどういう存在か」を通じて,逆に「日本に とって韓国は何か」も問う試みです。ひとつの確固たる見解が示さ れていますが、大家だからといって鵜呑みにするのではなく、等し

く批評し合うのが「知的誠実さ (intellectual honesty)」の核心です。

本書がほかの入門書と決定的に異なるのは、この精神と姿勢で真 摯に対話を続けてきたなかで生まれたということです。もちろん、 その過程では、13名の著者のあいだで異論や対立もみられました。 しかし、それぞれのアプローチを持ち寄り、協働することで、より よいもの、そうでなければありえないものを読者に届けることがで きるはずだという信念が支えになりました。

こんにち、AIも含めて、いかにコラボレーションをおこなうか、「新しい組み合わせ方」を生み出すかに、「未来(未だ来たらず)」「将来(将に来んとす)」がかかっています。

参考文献

- 小倉紀蔵『京都思想逍遥』ちくま新書。2019年
- 川島聡・飯野由里子・西倉実季・星加良司『合理的配慮――対話を開く,対話が 拓く』有斐閣,2016年
- 川村湊『ソウル都市物語――歴史・文学・風景』平凡社、2000年
- 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会 学』有斐閣, 2016 年
- 三島憲一『歴史意識の断層——理性批判と批判的理性のあいだ』岩波書店, 2014年
- 森川輝一『〈始まり〉のアーレント――「出生」の思想の誕生』岩波書店, 2010年
- 廉馥圭/橋本妹里訳『ソウルの起源 京城の誕生——1910 ~ 1945 植民地統治 下の都市計画』明石書店、2020 年
- 千葉大学アカデミック・リンク・センター「批判的に読む」 https://alc.chiba-u.jp/eyr/2020/10/29/03critical.html

執筆者紹介

浅羽祐樹	同志社大学グローバル地域文化学部教授 はじめに・	第	1	章
春木育美	聖学院大学政治経済学部教授	第	2	章
金 香男	フェリス女学院大学国際交流学部教授	第	3	章
金 明中	ニッセイ基礎研究所上席研究員	第	4	章
中戸祐夫	立命館大学国際関係学部教授	第	5	章
石田智範	防衛研究所戦史研究センター主任研究官	第	6	章
金ゼンマ	明治大学国際日本学部教授	第	7	章
山口 亮	東京国際大学国際戦略研究所准教授	第	8	章
成川 彩	韓国在住文化系ライター	第	9	章
古田富建	帝塚山学院大学リベラルアーツ学部教授	第	10	章
朴 鍾厚	同志社大学グローバル地域文化学部准教授	第	11	章
辻野裕紀	九州大学大学院言語文化研究院准教授	第	12	章
小倉紀蔵	京都大学大学院人間・環境学研究科教授	第	13	章

編者紹介 浅羽 祐樹 (あさばゆうき)

1976年生まれ。

2006年,ソウル大学校社会科学大学政治学科博士課程修了。 Ph.D. (政治学)。

現 在, 同志社大学グローバル地域文化学部教授 専門は、韓国政治・比較政治学・司法政治論

主な著作に、『韓国語セカイを生きる 韓国語セカイで生きる――AI 時代に「ことば」ではたらく 12 人』(共編著、朝日出版社、2024年)、『はじめて向きあう韓国』(編著、法律文化社、2024年)、『比較のなかの韓国政治』(有斐閣、2024年) ほか。

韓国とつながる

How Does Japan Redefine What Korea Means?

2024年12月20日初版第1刷発行

編 者 浅羽祐樹

発行者 江草貞治

発行所 株式会社有斐閣

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17

https://www.yuhikaku.co.jp/

デザイン 高野美緒子

印 刷 萩原印刷株式会社

製 本 牧製本印刷株式会社

装丁印刷 株式会社亨有堂印刷所

落丁・乱丁本はお取替えいたします。定価はカバーに表示してあります。

©2024, Yuki Asaba.

Printed in Japan. ISBN 978-4-641-14955-7

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行 業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

【JCOPY】本書の無新複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(一社)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。